

# 日本人らしさと宗教

武生高等学校

私達日本人の生活や文化は、宗教に大きな影響を受けている。しかし、一体どれだけの日本人がはっきりとした信仰心を持っているのだろうか。私はそれほど多くないのではと考えている。日本人の大多数がクリスマスを祝い、その数日後には神社や寺に初詣に行く。結婚式は教会で行うが葬式は仏教式。こういった複数の宗教が混ざった文化は世界から見るとかなり珍しいものだ。今回は、このような不思議な日本文化にある背景と宗教との関係、日本の現代社会における宗教のあり方について紐解いていく。

## 調査方法

インターネット、書籍

## 1. 日本の宗教の現状

### 宗教人口の分布(令和2年度版)

神道 88959345人(48.6%)      その他 7403560人(4.0%)

仏教 84835110人(43.5%)

キリスト教 1921484人(1.0%)

\* 合計が日本の総人口を超えるのは、それぞれの宗教で独自に人数を把握しているためにズレが生じるからである。

### 宗教法人数(令和2年度版)

神道系 84546法人(46.9%)      その他 14195法人(7.9%)

仏教系 76970法人(42.7%)

キリスト教系 4722法人(2.6%)

### 寺、神社の参拝者数

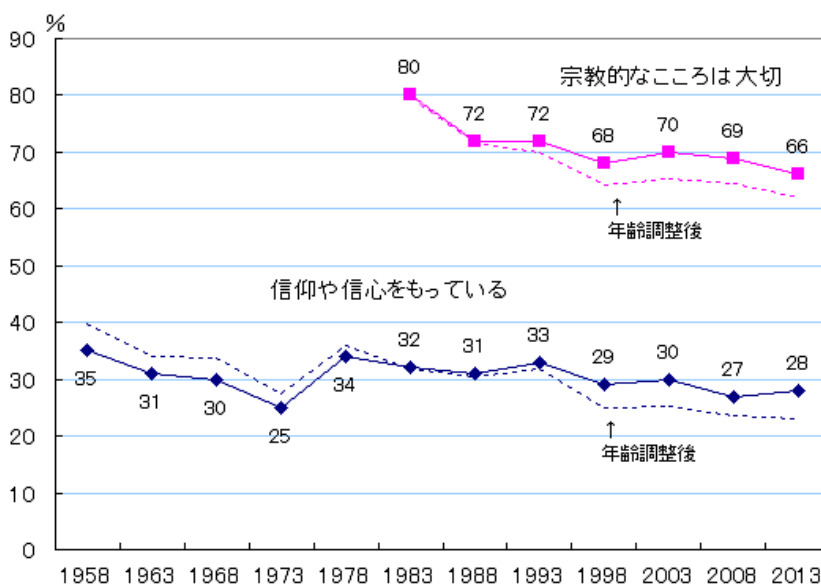
日本で最も参拝者の多い寺、神社の正月の参拝者数を比較する。

成田山新勝寺 約305万人

明治神宮 約310万人

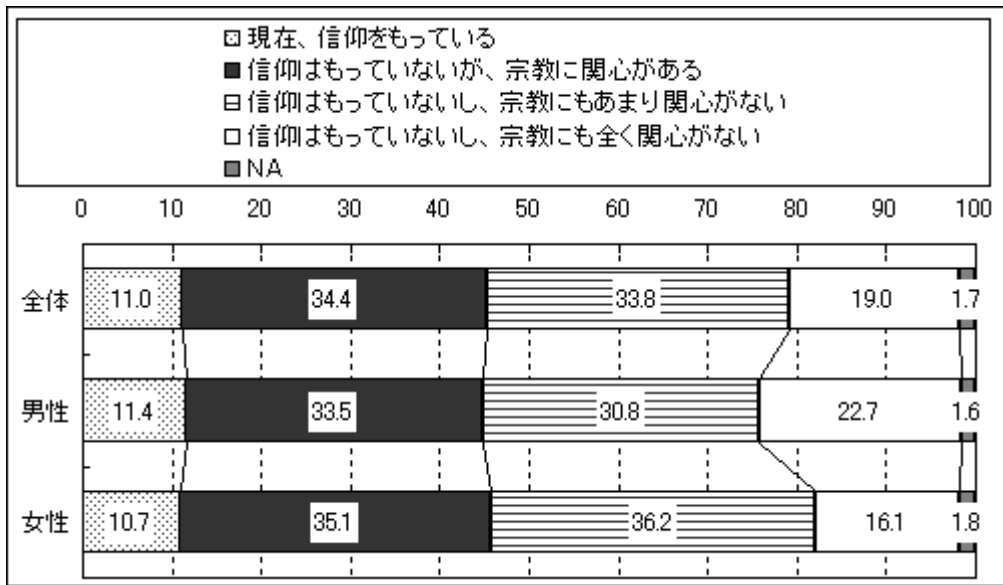
### 宗教に対する意識

日本人の宗教心の推移

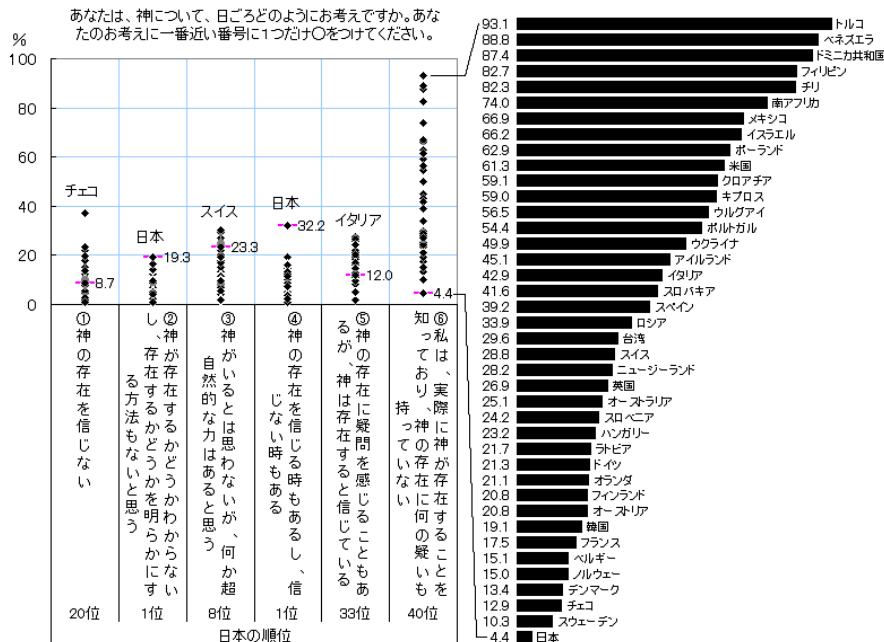


(注) 年齢調整は1983年の年齢構成が変わらない場合の値

(資料) 統計数理研究所「日本人の国民性調査」



神についての考えの国際比較(2008年)



(注) データは国際的な継続的共同調査であるISSP(International Social Survey Programme)2008年調査(宗教についての国際比較調査、各国、概ね18歳以上男女約1000~3000人が対象)による。無回答を除いた割合。日本はピンクの横線で印づけ  
(資料)ISSP [http://www.issp.org/index.php]

このように、日本で信仰が盛んだとされている主な宗教は仏教と神道であり、この2つの勢力は同程度である。また、寺や神社への参拝者数も多く日常の様々な場面で宗教との関わりを持っている事がわかる。しかし、宗教に対する意識となると信仰心は薄く、曖昧な考えを持っている事がうかがえる。他国と比べてみると、やはり日本は信仰心の薄い部類に入っており、宗教に対するはっきりとした考えを持っていないことが示されている。このような国は世界的に見てもまれである。このような状態となった理由としては、長い歴史の中でなにか大きな事件があったというわけではなく、政治と宗教が結びつけられていなかったということや、宗教が日本人にとってあまり必要とされていなかったということがあるのではないかと考えた。これらのことを明らかにするために、まずは日本の宗教の歴史について調べ自分なりに解釈した後、より細かな要因を調べた。

## 2. 日本の宗教の歴史

日本で生まれた最初の宗教は古神道である。古神道というのは、自然物や祖先など、あらゆる物に神が宿るといふ「八百万の神」の考えを持つ民族宗教だ。これが縄文時代頃に生まれ、六世紀頃まで日本で唯一の宗教として信仰され続けた。しかし、六世紀に入り朝鮮半島から日本に仏教が伝来する。そして、この仏教を蘇我氏が支持しそれと対立するように物部氏が神道を支持した。この対立は蘇我氏が物部氏に勝利し、結果的に仏教が日本で広がることとなった。

飛鳥時代に入ると、聖徳太子が仏教を基調とした政治を行うようになり、日本初の仏教文化である飛鳥文化が隆盛したが、聖徳太子の没後に行われた蘇我氏の独裁が原因で大化の改新が起り、中央集権国家の国作りの流れになったことにより神道が重要視されるようになる。奈良時代ではまた情勢が変わり、中国の政治システムと仏教とを同時に輸入することによって、国家を安定させようとした。この結果、日本では仏教と神道が混ざった「神仏習合」という考え方が生まれることになった。例としては、神と仏は同一であるという本地垂迹説や神社内に建てられた寺院である神宮寺などがある。

平安・鎌倉時代では仏教のスタイルが大きく変化した。平安時代、最澄や空海の活躍によって仏教はより考え方やルールなどが確立され、鎌倉時代、民衆にも受け入れられるような宗派が多く誕生した。そしてこの流れの中で、神道がオリジナルで、仏教はあとから生まれた物であるという思想が生まれた。これが神道を信仰の中心にしようとする流れをつくった。神道と仏教の対立構造のようなものが出来上がったのである。やがて、仏教は弾圧されるようになり、神道と仏教の勢力関係は逆転することとなった。

江戸時代、新たに儒教が取り入れられた。これは、儒教が身分の上下などを重んじるものであり、なおかつ神道の考え方に全く害がなかったため、国家を統制するのに適していたからである。さらに、一つの寺を中心として区画を作り、その住人の葬儀を受け持つ寺壇制度、寺同士で上下関係を作る本末制度を取り入れた。これらの結果、仏教は葬儀を中心に行うもの、神道は国民が信仰するものであるという構図が生まれた。

幕末になり海外からの圧力が高まると、日本の唯一の宗教である神道を隆盛させて国民の結束力を強めようとする動きが始まった。明治時代ではこれが本格的になり、長い間存在し続けた「神仏習合」の考え方がおわり、新たに「神仏分離」という考え方が生まれた。それから第二次世界大戦終了まで神道を中心とした教育などが行われたが、敗戦後、GHQにより神道を国家で押し進めることを禁止する神道指令が出され現在のよう状態となった。

### 簡単な流れ

縄文時代 日本で最初の宗教である「古神道」が誕生した。あらゆるものに神が宿る「八百万の神」の考え。

古墳～飛鳥時代 6世紀頃に仏教が伝来。蘇我氏の力によって仏教が栄え聖徳太子の影響で更に発展したが、大化の改新が起り中大兄皇子らが政治の実権を握るようになる。中大兄皇子らは中央集権国家を目指したため神道が重要視されるようになり、仏教と神道の勢力関係は変化した。

奈良時代 聖武天皇が国家の安定のため中国から政治システムなどを輸入し、その影響で仏教と神道の考えが混ざり、新たに「神仏習合」の考えが生まれる。同時期に日本の神話である「古事記」も生まれる。

平安～鎌倉時代 宗教の思想体系や規則などが確立され、内容が充実した。また、民衆にも実行しやすい新たな宗派も誕生した。この頃から神道が仏教のもととなっている考えが広まるようになった。

南北朝～戦国時代 天皇家が政治権力を取り戻そうとしたことなどから、神道を中心とし仏教を排除する運動が行われるようになった。戦国時代では仏教勢力は軍事的な力を持っていたが、弾圧される。

江戸時代 国民の統制のため儒教が取り入れられる。上下関係や家族を大事にする考え。仇討ちの考えもこの頃に生まれた。また、仏教と神道の役割がそれぞれ確立され、現在と同じような構造になった。仏教は主に葬儀、神道は国民の信仰対象としての役割。

幕末～戦後 海外からの圧力が高まり、国民の結束力を強くする必要があったため、国家が神道を信仰の中心とする「国家神道」の運動が始まる。この運動は第二次世界大戦終了まで続いたが、GHQにより廃止され、教育で神道を教えることなどが禁止された。これらによって国民の信教は自由になり、現在と全く同じような状態となった。

### 3.現代の日本人の考え方に影響を与えたもの

#### 古神道

先程述べたように、古神道というのは他の宗教に一切影響を受けていない日本独自の宗教である。その特徴として、自然物や祖先への信仰、いわゆる「八百万の神」の考え方がある。この考え方は、古くから受け継がれてきた日本人の根本的な考えであると思う。自分と神との境目が曖昧であり、神の存在がとても身近である古神道は、自分と神とが対立関係にあるようなキリスト教などとは大きく異なっている。この影響として、日本人の国民性は「和を尊ぶ」というものであり、相手の気持ちを尊重することを第一に考えるのに対して、キリスト教徒が国民の約8割を占めるアメリカでは「自分の意見を主張する」ことが重要視される。日本人のこの独特なコミュニケーションのあり方は、「自分と他人とは切っても切り離せない関係であり、常に互いに影響しあっている。」という考えのもと、何千年も前から形成されてきたものなのである。

#### 古神道と神道の違い

現在私達が認識しているような神道は、仏教やキリスト教、ヒンドゥー教などの影響を受けたものである。江戸時代、このように変遷してきた神道はいったいどのようなものであったか研究が行われるようになった。明治時代になり、研究が進んだことや国家神道の影響で神道のルールなどが確立されるようになったことで、神道と古神道の区別がつけられるようになった。

#### 神仏習合・神仏分離・神道指令

日本の歴史では、宗教は様々に形を変えながら最終的には1つの宗教にまとまることなく、文化としてそれぞれの宗教が残り続けている。奈良時代に端を発した神仏習合の流れでは、神と仏を同一であるとしたことで各地に仏教と神道が混合した建造物が建てられるようになった。例として、釈迦の遺骨を祀るための五重塔が神社内に建設されている日光東照宮、寺院の境内に鳥居がある宝山寺などが挙げられる。行事に関しても、初詣に神社、寺関係なく行くようになったり、葬儀が仏教中心になったりした。こういった流れは明治時代まで続き、長い時を経て日本人の文化として定着した。異なる宗教が混合しても民衆に受け入れられたのは、日本人の根幹に存在した古神道の柔軟な考え方の影響が強いのではないだろうか。

そして、明治時代から始まった国家神道の流れがGHQの神道指令によって禁止されたことは、現代の日本人が自国の宗教を深く理解しなくなった最も大きな原因と言える。神道指令では、政治と宗教とが完全に分離されたり、宗教教育が禁止されたりした。宗教教育を受けなかった学生たちが大人になり、宗教のことを教えるべき立場になったとき、宗教への認識不足により何も教えることができない。こういった状況が続いていき、やがては国の文化としての宗教だけが残り、それに関する認識が欠落してしまうようになった。また、宗教が混合し過ぎてしまったため、日本人の大部分は、自分はなにを信じれば良いのかが分からなくなってしまったのである。

#### キリスト教

キリスト教が日本人に与えた影響は仏教や神道ほど直接的ではないが、現在でも多くの文化が残されている。クリスマスやイースター、結婚式などがキリスト教の文化である。また、多くの私立中学、女子大学、私立大学がキリスト教徒によって創立されたという教育的な影響もある。

16世紀、宣教師のフランシスコ・ザビエルが来日したのが日本におけるキリスト教のはじまりである。キリスト教は短い期間で急速に信者を増やしたが、僅か60年ほどで信仰が禁止され、その後禁教政策が約260年間続いた。その理由としては、キリスト教が単なる一宗教ではなく、社会や政治に過度な影響を与えてしまったことが最も主要である。宣教師たちは、日本との貿易を盛んに行い利益をもたらすだけでなく、軍需物資の調達も行い軍事的な力を持つようになったため日本にとって危険な存在となると考えられたのである。

19世紀後半になって禁教が解かれると、再び多くの宣教師が日本にやってきた。しかし、近代化を急いでいた日本が宣教師たちに求めていたのはあくまで外国の知識や学問、言語であった。宣教師の側も学問や言語をきっかけとして布教を行おうとしていたため、両者のニーズは一致した。だが、近代化が一番の目的だった当時の日本にとって、キリスト教は国の発展のために利用する手段に他ならず、あくまでも「西洋の文化」「他人の文化」でしかなかったのである。

このようなことが原因で、キリスト教は日本人にとっての信仰の対象にはなれなかったのである。今現在でも、キリスト教を信仰している日本人は全体の約1%しかいない。だが、日本人がキリスト教と関わり合っていた期間は実質150年ほどとかなり短い。もしかすれば今後の社会の変化によってキリスト教が多くの日本人に信仰されることがあるかもしれない。

## 儒教

仏教よりも長い歴史を持つ儒教は、歴史とともに様々に発展していった。儒教の教えは身分の上下や礼儀を重んじるなどの思想哲学であり、現代の日本にも年功序列制度などとして色濃く残っていると言える。今の時代の流れにはそぐわない考え方と言えるものもあるが、「日本人らしさ」を形成した大きな要因であり、人格の形成に大いに役立つものである。

儒教の主な考え方

仁:人を愛し思いやること 義:利や欲にとらわれずに、世のため人のために行動すること  
礼:謙遜し、相手に敬意を払って接すること 智:偏らずに幅広い知識や知恵を得て、道理をわかまえることで、善悪を判断すること 信:人を欺かず、常に約束を守り、嘘をつかず誠実であること  
これらを守ることで人間関係もうまくいくという考え。

## 宗教に関する事件

日本人が宗教に関心を持たなくなった、あるいは宗教を遠ざけるようになったのは「宗教は危険だ」という思想が広まっているからなのではないだろうか。その最も大きな要因はオウム真理教事件だと思う。事件前では、メディアがオウム真理教を大きく取り上げ、有名人も理解を示していたような団体であったため、事件が起きた当時の人々は大きな衝撃を受けた。その他にも、イスラム過激派による犯罪行為や中東戦争に関する報道が大きく報道されることもあった。当時の私は宗教について何も知識がなかったが、「分からない」ということが宗教に対する恐怖感をより増長させた。私だけでなく、多くの人がそうだったのではないだろうか。さらに、日本人は信仰心の強い国民性ではないため、熱心に信仰する人達のことを異質であると認識している傾向もある。これらによって、日本人にとっての宗教は「よくわからないし危ない」といったイメージになってしまい、結果的に文化としての宗教だけを体験するだけになってしまったのである。

オウム真理教事件:日本にかつて存在した新興宗教団体「オウム真理教」が1988年から1995年にかけて引き起こした事件の総称。

坂本堤弁護士一家殺害事件

オウム真理教問題に取り組んでいた坂本堤弁護士とその家族を、オウム真理教の幹部6人が殺害した事件。当時オウム真理教は出家した信者の家族や、教団の活動に不満を持つ人々との間にトラブルを頻繁に起こしていた。坂本弁護士はそんな被害者たちの声をもとにして、1989年5月にオウム真理教の反社会性を批判・追及する「オウム真理教被害者の会」を組織する。そんな活動を疎ましく思っていた麻原は、幹部たちに坂本弁護士の殺害を指示する。1989年11月に坂本弁護士宅に侵入した幹部たちは、坂本弁護士だけでなく妻と当時1歳だった息子も殺害した。犯行後遺体は実行犯たちによって様々な場所に遺棄された。

#### 松本サリン事件

長野県松本市内でオウム真理教がサリンを散布したことにより、8人の死者、600人の負傷者が出たテロ事件。長野県松本市に教団施設の建築を計画していたオウム真理教に対して反対運動が起き、さらに賃貸契約の不備によって民事裁判が行われる。長野地方裁判所松本支部は1994年7月に判決を言い渡す予定だったが、それを知った麻原が幹部たちに命じて裁判所宿舎にサリンを散布した。

#### 地下鉄サリン事件

1995年3月20日、営団地下鉄(現・東京メトロ)の丸ノ内線、日比谷線、千代田線3路線の計5本の車内に、猛毒のサリンが撒かれた。ビニール袋に入れられたサリンはドア付近に置かれ、実行犯たちは下車直前に傘の先でパックを突き破って逃走。走行中の車内にサリンが拡散されるにつれ、体調に異変をきたした人が次々に倒れた。さらに、被害者の衣類などにしみ込んだガス成分によって、救出に当たった駅員や消防隊員、警察官、救急隊員たちも次々と倒れる事態に。事件発生当時、現場ではサリンによる凶行だということがわからないまま、も二次被害が広がっていった。

### 新興宗教

新興宗教とは、仏教や神道などのように古くから存在してきた伝統宗教とは違って、比較的新しい時期に成立した宗教のことだ。こちらもまた「宗教は危険だ」という思想を広げた大きな要因の一つである。その理由として、勧誘が多いことが挙げられる。多くが金儲けを目的としたものであったり、暴力的な勧誘方法をとっていたりする。インターネットで新興宗教の勧誘の経験談などについて調べてみても、殆どがマイナスな印象のものだった。

バブル期に最も流行し、当時の人々の間では少し怪しいものとしてしか認識されていなかったようだが、オウム真理教事件を境にはっきりと危険なものとして認識され、人々の嫌われる対象となり数は減少した。今でも数は減少傾向にあるが、インターネットなどを利用した新しい方法で信者を獲得している。

## 4.日本におけるこれからの宗教のあり方

現代の日本では、多くの宗教に共通する超人的な世界観が人々から信仰されることは少なくなっている。しかし、宗教の一部の機能は働き続けるはずだと私は思う。それは、人々の精神面を支える機能だ。生産性の低かった時代に形成されてきたものであるからこそ、人々の心に寄り添うような教えが説かれている。現代では、合理的でないことは良しとされないが、もし答えの出せないような問いが出てきたときに有効なのは元来の宗教的な考え方なのではないだろうか。

また、これまで述べてきたように、宗教は文化や思想、価値観などを形成する。普段の生活で意識することはなくとも、根本的な考え方として神道や仏教、儒教などの考えを私達は持っている。つまり、宗教を学ぶことは人々がアイデンティティを確立する上で重要な役割を担っているのである。だからこそ私達は教養として宗教を学ぶ必要がある。それは大人になってから学ばばいいといったようなものではないと思う。それこそ、義務教育課程で学ぶ必要があると感じている。

機械化やコロナウイルスなどによって、人々の将来への不安、閉塞感は未だかつてないほど大きくなっている。このような状況で、人々が本当に必要とするものは心の平安であると思う。そしてそれを支える役割を担う宗教は、これからの時代に必要とされていくのではないだろうか。だが、宗教を学ぶことは敷居が高く敬遠されがちである。そこで必要になってくるのは、学校での宗教教育やYouTubeなどで気軽に学べるコンテンツだ。これらが充実すれば、多くの人々が宗教を理解することができるはずだ。私としては、SNSを利用した学習が最も効果的であると考えている。「勉強」というイメージを軽減でき、また、自分の好みにあったユーザーを選択できるため効率が良いからだ。さらに、自分の生活と深く関わりのある宗教を学ぶことで、世界で起こっている様々な問題を深く理解することができる。宗教は教育面でも大きな影響を与えることができると考える。

最後に、私はこの研究によって明らかになった「日本の面白さ」をより多くの人たちに知ってほしいと願っている。宗教を信仰しているとされているのに信仰心が実に曖昧であり、しかし、宗教に関する行事となるとまるでそれが規則であるかのように皆が参加する。国でも宗教を統一せず、世界中のあらゆる宗教のいいとこ取りをして文化だけを積極的に取り入れている。こういった海外の常識からかけ離れたところは、日本の魅力の一つなのではないかと思う。最近、国内のニュースでも日本に関する情報はどこかマイナスのイメージを受けるようなものが多いと感じていた。しかし、日本に存在し続ける「面白さ」に目を向けてみて、こんなにも自分が生きている国は素晴らしいのかというプラスの考え方が生まれた。この経験を多くの人にも体験してほしい。今後は、自分が人に伝える側になれるようさらなる研究を続けたい。

## 参照

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8F%A4%E7%A5%9E%E9%81%93>

<https://shinto-bukkyo.net/shinto/%E7%A5%9E%E9%81%93%E3%81%AE%E7%9F%A5%E8%AD%98%E3%83%BB%E4%BD%9C%E6%B3%95/%E5%8F%A4%E7%A5%9E%E9%81%93/>

[https://www2.fgn.jp/mpac/data/8/?d=200804\\_24](https://www2.fgn.jp/mpac/data/8/?d=200804_24)

[http://park.tachikawaonline.jp/news/shrines\\_templates/3203/](http://park.tachikawaonline.jp/news/shrines_templates/3203/)

[https://www.news-postseven.com/archives/20170226\\_496441.html/3](https://www.news-postseven.com/archives/20170226_496441.html/3)

<http://okinogu.or.jp/2020/04/22/%E7%A5%9E%E9%81%93%E3%81%A8%E4%BB%8F%E6%95%99/>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E9%81%93>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BB%8F%E6%95%99>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AD%E3%83%AA%E3%82%B9%E3%83%88%E6%95%99>

<https://www.moj.go.jp/psia/aum-26nen.html>

